

ご当地アルプス

新田 由紀子

町一番の繁華街を「何々銀座」と呼ぶのはいまは流行らないようだ。山の場合の「アルプス」はどうだろう。北や南、中央アルプスに次いで「東アルプス」というのを耳にしたことがある。

山梨・埼玉・長野三県にまたがる百名山の一つ、甲武信ヶ岳の頂上小屋で「東アルプス」をうたうポスターを見た。なんでも、奥秩父の両神・雲取・甲武信から山梨の金峰・瑞牆の山々へ至る主脈をそう呼ぼうというのだ。どの山も堂々の名峰だから、アルプスと呼んでも名に恥じないと思う。東アルプスの名称が日の目を見ないのは、三千崙を越える高峰がないせいかもしれない。東が名乗りをあげたなら、さて西はどこになるのやら楽しみだ。

この頃は「ご当地アルプス」が流行りだ。地域の低山の連なりをアルプスと名付けてハイカーを誘う。つられて登ってみたのは、足利アルプス、富岡アルプス、長瀬アルプス、小鹿野アルプス、鎌倉アルプス、三浦アルプス、房州アルプス、沼津アルプスなどなど。標高はせいぜい数百崙に過ぎないが、アルプスと銘打たれば、ちよつとした岩場もあって登り甲斐もあるものだ。

近場の奥武蔵の山々の一画が「飯能アルプス」と呼ばれているのを知った。よく歩いてきた山域だ。都心から一時間半、西武池袋線に秩父線を乗り継いだどの駅でも山が迎えてくれる。が、なんとこの飯能アルプス、西武池袋線飯能駅から、もう歩き出せるフットワークの良さ。

市街を抜けて遠足の定番天覧山と多峯主山を越え、開発宅地の裏山を通る。稜線の植林帯を竈山、天覚山、大高山を経て、子の権現、古御岳、伊豆ヶ岳から秩父に抜ける正丸峠まで、約二六^キのコースだ。

毎年ここを山走るトレラン大会がある。天覧山でこそ一九七崙の超低山だが、最高点伊豆ヶ岳は八五〇崙のミニ岩峰。小さなコブを登り下りして、木の根や岩ザレ道を時間を競って駆け抜けていくランナーたちを見ると、山の楽しみ方も多様になったものだと思う。